

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第127期第3四半期（2020年4月1日から2020年12月31日まで）の営業概況をご報告申し上げます。

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による大幅な落ち込みから持ち直しの動きが見られたものの、米国や欧州、東南アジア等は依然として厳しい状況が続きました。わが国経済においても、国内外の経済活動が再開する中で、輸出や個人消費等が改善基調に転じましたが、コロナ禍からの本格的な回復には至らず、景気は総じて低調に推移いたしました。

このような経営環境下、当社グループは、新型コロナウイルスの感染防止策を講じつつ、顧客への安定供給に注力いたしました。また、全社経営改革委員会を設置し、大幅な需要の減少に即応した生産体制の見直しによる固定費の圧縮等、緊急収益改善策に取り組んでまいりました。加えて、自動車・産業機械部品事業におけるグループ生産体制の最適化の検討や鉄鋼事業での独自製品の開発・拡販等を推進いたしました。さらに、鉄リサイクル高度化のための選別設備を着工するとともに、製品のライフサイクル全体の環境情報を定量的に開示するエコリーフ環境ラベルを鉄鋼6製品で取得する等、持続可能なESG経営基盤の強化に取り組み、中期経営計画“Growth & Change 2021”を進めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間における業績につきましては、第3四半期には需要は回復し収益が改善したものの、上期の影響が残り大幅な減収、損失を計上することとなりました。当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が継続するものと思われませんが、収益力向上とお客様や社会のニーズを捉えた新事業・新製品の開発に引き続き取り組み、本年迎える当社創立100周年を越えて持続的な成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年3月



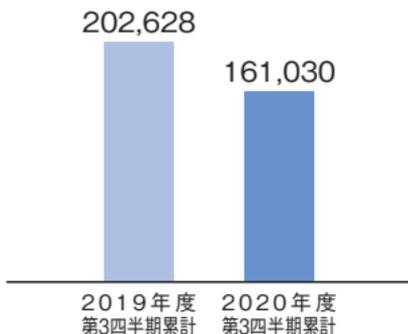
代表取締役社長

高松信彦

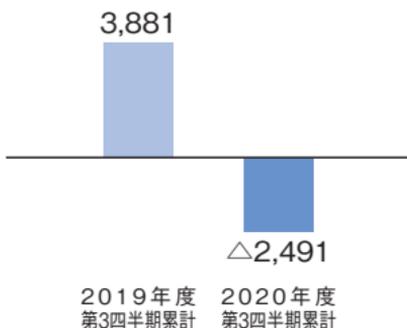
連結業績の推移

(単位：百万円)

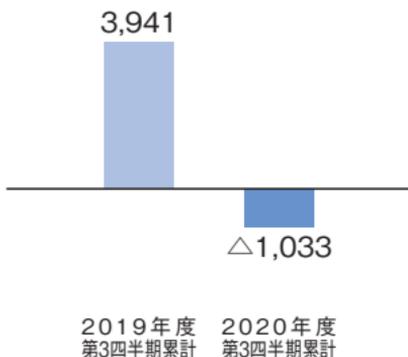
売上高



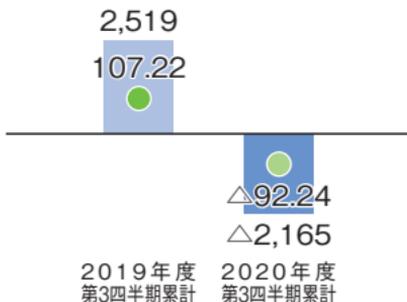
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益 (■) (円)
1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科目	2019年度末	2020年度 第3四半期末	科目	2019年度末	2020年度 第3四半期末
資産の部			負債の部		
流動資産	115,074	122,784	流動負債	74,053	85,736
固定資産	139,584	142,966	固定負債	76,805	76,368
有形固定資産	100,445	98,487	負債合計	150,858	162,104
無形固定資産	4,637	4,071	純資産の部		
投資その他の資産	34,500	40,407	株主資本	99,323	96,925
資産合計	254,659	265,751	その他の包括利益累計額	3,409	5,775
			非支配株主持分	1,068	945
			純資産合計	103,800	103,646
			負債純資産合計	254,659	265,751

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 53,519百万円  営業利益 944百万円 

鉄鋼業界は、製造業向け需要が大幅に減少し、粗鋼生産は大きく落ち込みました。その中で、電炉業界は、コロナ禍から回復した中国の鉄鋼需要の急増によって主原料である鉄スクラップ価格が第3四半期に入り急騰する等、厳しい状況に置かれました。

このような環境下、当社グループは、輸出や建設向け販売等に注力し、数量は前年同期を上回ったものの、販売価格は低下しました。また、緊急収益改善策によるコスト削減に取り組んだものの、販売価格の改善に先行して高騰した鉄スクラップ価格の影響を受けました。

自動車・産業機械部品事業

売上高 97,594百万円  営業損失 787百万円 

自動車業界は、足元では持ち直しの動きがあるものの、期前半における国内外の需要の低迷や工場の操業停止等があり、世界各国で生産が大きく落ち込みました。また、建設機械業界も、中国に加え、その他地域においても経済活動の再開とともに回復基調となるものの、期前半における需要の低迷が響き、油圧シヨベルの生産は減少いたしました。また、鉱山機械につきましても、東南アジアを中心に需要が減少いたしました。

このような環境下、当社グループは、より収益力のある事業構造に向けた改革案を検討するとともに、緊急収益改善策によるコスト削減を実行いたしました。大幅な販売数量の減少の影響を受けました。

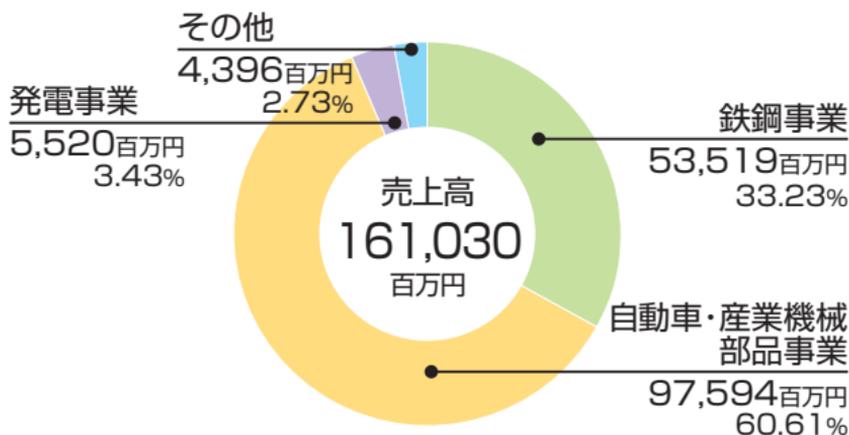
発電事業

売上高 5,520百万円  営業利益 175百万円 

地球温暖化問題を背景とした石炭火力発電の抑制の動きや価格競争の激化等の影響により、厳しい事業環境が続きました。このような環境下、事業計画に沿って安定した電力供給に努めました。

その他

売上高 4,396百万円  営業利益 375百万円 



連結業績の予想

	2019年度通期 実 績	2020年度通期 予 想
売 上 高	263,305百万円	217,000百万円
営 業 利 益	2,851百万円	△2,500百万円
経 常 利 益	3,597百万円	△1,500百万円
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△4,497百万円	△2,500百万円
1株当たり当期純利益	△191.42円	△106.39円

配当の状況

	2019年度 実 績	2020年度 実績・予想
第2四半期末	40.00円	0.00円
期 末	0.00円	20.00円
合 計	40.00円	20.00円



敷地面積：約13千㎡

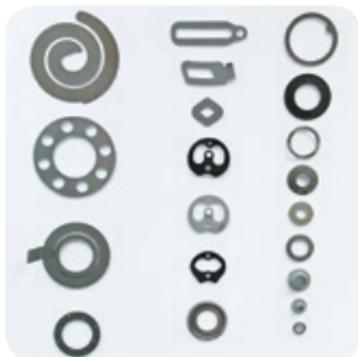
従業員数：423人（2020年12月末現在）

生產品目：二輪及び四輪車向け工業用ファスナー

トピーファスナー (タイランド) リミテッドは、1994年以来、自動車や精密機械等で使用される、複雑な形状に精密加工した板バネ、皿バネ、ワッシャー、クリップ、止め輪等、約1,500品番を開発から製造まで自社で一貫して行い、日系の自動車メーカーをはじめ、約280社へ製品を供給しています。

また、国際的な品質マネジメントシステムであるISO9001・14001やIATF16949の取得と品質の継続的な改善により、お客様との信頼関係を構築してまいりました。近年はアセアンのみならず、中国、インド、ブラジル等へ販売圏を拡大しております。

トピーファスナーグループは、長野・松本市にマザー工場を有し、タイのほか、アメリカ、ベトナム、メキシコに生産拠点を展開しています。今後もグローバルに展開する各拠点が連携し、お客様へ競争力のある高品質の製品を安定供給してまいります。



工業用ファスナー